

第 5 章

子育て環境と社会的な子育て支援制度

松本 聡子



第 1 章

第 2 章

第 3 章

第 4 章

第 5 章

第 6 章

資料編

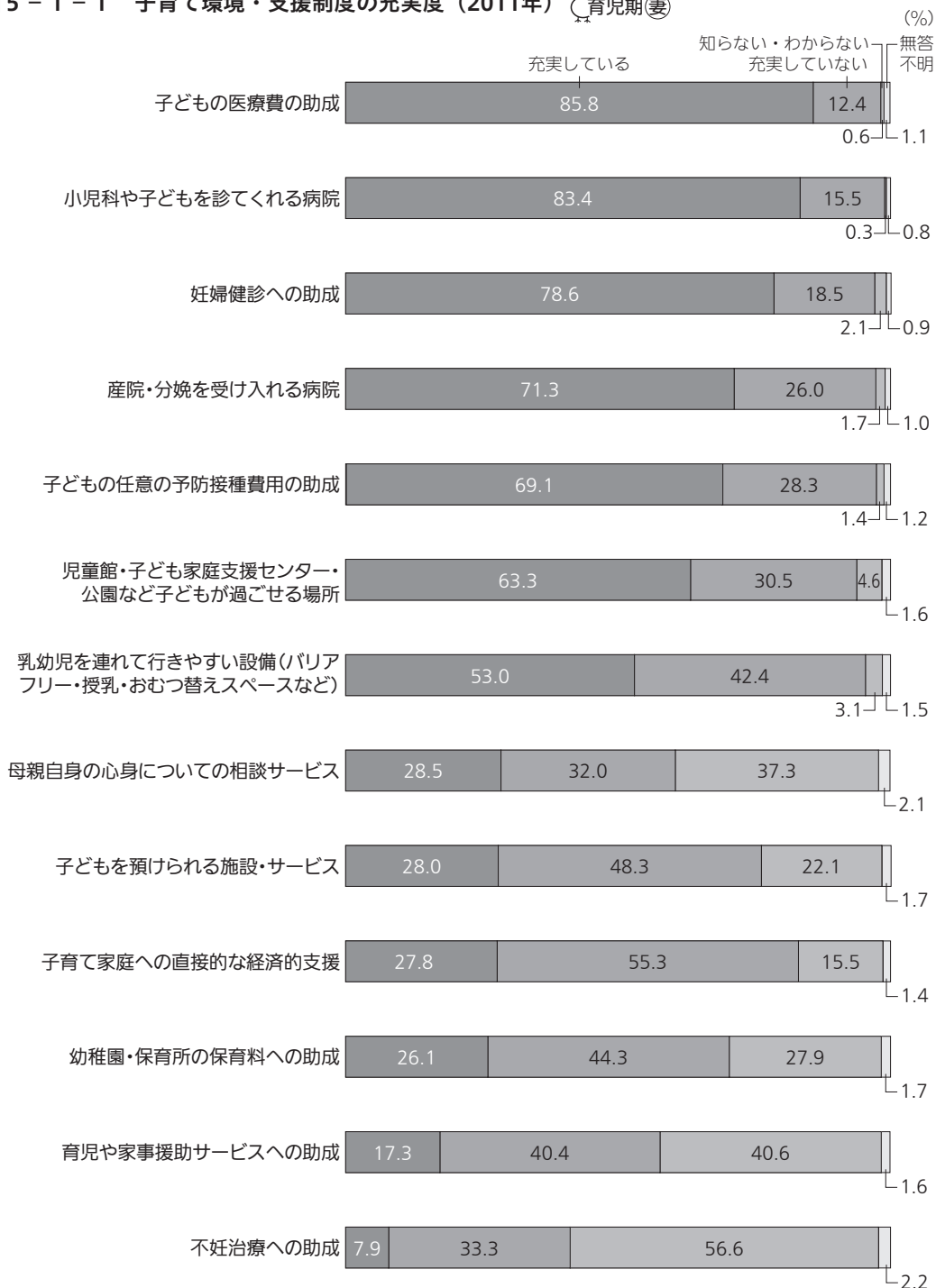
子育て環境・子育て支援の充実度

子育て環境・支援制度は、充実度と認知度の高低によって、3つのパターンに分けられる。医療制度・助成は国による実施のため、充実度・認知度ともに高いが、地方自治体に任されることの多い経済支援などでは、充実度に差がみられる。

本調査では、子育て環境・支援制度として、①助成：子どもの医療費、妊婦健診、子どもの任意の予防接種費用、幼稚園・保育所の保育料、育児や家事援助サービス、不妊治療、子育て家庭への直接的な経済的支援、②施設：小児科や子どもを診てくれる病院、産院・分娩を受け入れる病院、児童館・子ども家庭支援センター・公園など子どもが過ごせる場所、乳幼児を連れて行きやすい設備、③サービス：母親自身の心身についての相談サービス、子どもを預けられる施設・サービス、の合計13項目を設定した。これらの施設・支援制度について、「とても充実していると思う」、「まあ充実していると思う」、「あまり充実していると思わない」、「まったく充実している

と思わない」、「知らない・わからない」の5つの選択肢から、自身の評価にもっとも近いものを1つ選択してもらった。図5-1-1はこれらの項目に対する育児期妻（以下、本章では母親と称する）の回答を、「とても充実していると思う」と「まあ充実していると思う」を「充実している」、「あまり充実していると思わない」と「まったく充実していると思わない」を「充実していない」と2つのグループにまとめ、「充実している」と回答した割合が多い順に並べた結果である。この回答のパターンから、子育て環境・子育て支援制度を次の3つのパターンに分類した（次ページに続く）。

図5-1-1 子育て環境・支援制度の充実度（2011年）



注) 「充実している」 = 「とても充実していると思う」 + 「まあ充実していると思う」
 「充実していない」 = 「あまり充実していると思わない」 + 「まったく充実していると思わない」。

パターン1：

制度・支援について「知らない・わからない」という人がほとんどおらず、充実度の評価も高いもの

- 「子どもの医療費の助成」
- 「小児科や子どもを診てくれる病院」
- 「妊婦健診への助成」
- 「産院・分娩を受け入れる病院」
- 「子どもの任意の予防接種費用の助成」

このパターンに属する項目は、産院と子どもを診る病院と、妊娠・出産・子育てにかかわる助成制度であった。これらの施設や支援制度については、知らない人も少なく、充実度も高いことが示された。とくに、子どもの医療費の助成や、小児科や子どもを診てくれる病院については、8割以上の母親が「充実している」と回答しており、「知らない・わからない」と回答した人も全体の1%に満たなかった。

産院や、病院は子どもの体調管理のために非常に重要な施設であるため、有無だけではなく、その質についても情報収集を積極的に行い、できるだけよい病院をみつけていることが想像される。また、子どもの医療費の助成制度、妊婦健診への助成制度、子どもの任意の予防接種費用の助成制度は、地方自治体によって助成内容に違いはあるものの、国全体として推進することになっているものである。よって、助成制度があるということは周知されていると想定され、また、国としても支援の拡充を図っているものであるため、充実度も高くなっていると考えられる。

パターン2：

「知らない・わからない」という人は少なく、充実度の評価は高いほうが少し多いもの

- 「児童館・子ども家庭支援センター・公園など子どもが過ごせる場所」
- 「乳幼児を連れて行きやすい設備」

子育てにかかわる物理的な環境の整備についても、情報を得ていない人は少ないということが示された（双方とも「知らない・わからない」と回答した人は全体の5%未満であった）。しかしながら、充実度の評価については、パターン1の項目と比べると、「充実している」と「充実していない」の差が大きくはない。地域にあることはあるが、その整備レベルにはばらつきがあり、充実度が高いものから充実度が低いものまで、さまざまな質のものが存在することが予想される。とくに、「乳幼児を連れて行きやすい設備」については、公共交通機関や公共施設、大規模商業施設などでは設備の充実が図られているが、地域によってはまだ十分ではないところも多く存在することが予想される。

.....
パターン3：

「充実していない」という回答のほうが
「充実している」という回答より多いもの・
ほかの項目に比べて、「知らない・わからない」
という回答が多いもの
.....

- 「子育て家庭への直接的な経済的支援」
- 「子どもを預けられる施設・サービス」
- 「幼稚園・保育所の保育料への助成」
- 「不妊治療への助成」
- 「育児や家事援助サービスへの助成」
- 「母親自身の心身についての相談サービス」

充実度が低い項目

「子育て家庭への直接的な経済的支援（充実している：27.8%＜充実していない：55.3%）」、「子どもを預けられる施設・サービス（充実している：28.0%＜充実していない：48.3%）」、「幼稚園・保育所の保育料への助成（充実している：26.1%＜充実していない：44.3%）」は「充実していない」と回答する人の割合が相対的に高い。これらの3項目に共通するのは、子育て中の世帯からのニーズが一般的に非常に高いと考えられていることである。経済的な面については、さまざまな調査の結果から、不安・負担を感じて

いる養育者が多いことが指摘されており、子どもを預けられる施設・サービスについては、待機児童の問題や、一時預かりへの要望の高さなどがあげられている。このような結果になった理由の1つは、養育者からの要望の高さに比べて、整備が追いついていないことが予想されること、支援制度・助成内容が住んでいる地域によってばらつきがあることなどが考えられる。とくに、経済的な支援については、助成制度として国レベルで実施されているものとは異なり、地方自治体の自由裁量に任されているものが多く、充実度に差が生じてしまうのではないだろうか。

「知らない・わからない」が多い項目

「不妊治療への助成（知らない・わからない：56.6%）」、「育児や家事援助サービスへの助成（知らない・わからない：40.6%）」、「母親自身の心身についての相談サービス（知らない・わからない：37.3%）」については、「知らない・わからない」と回答した人がほかの支援制度と比較して多い。その背景要因として、これらの項目は、必要を感じた人がそのときに支援・助成の有無を自分から積極的に調べなければならないものであることがあげられるだろう。

父親の評価

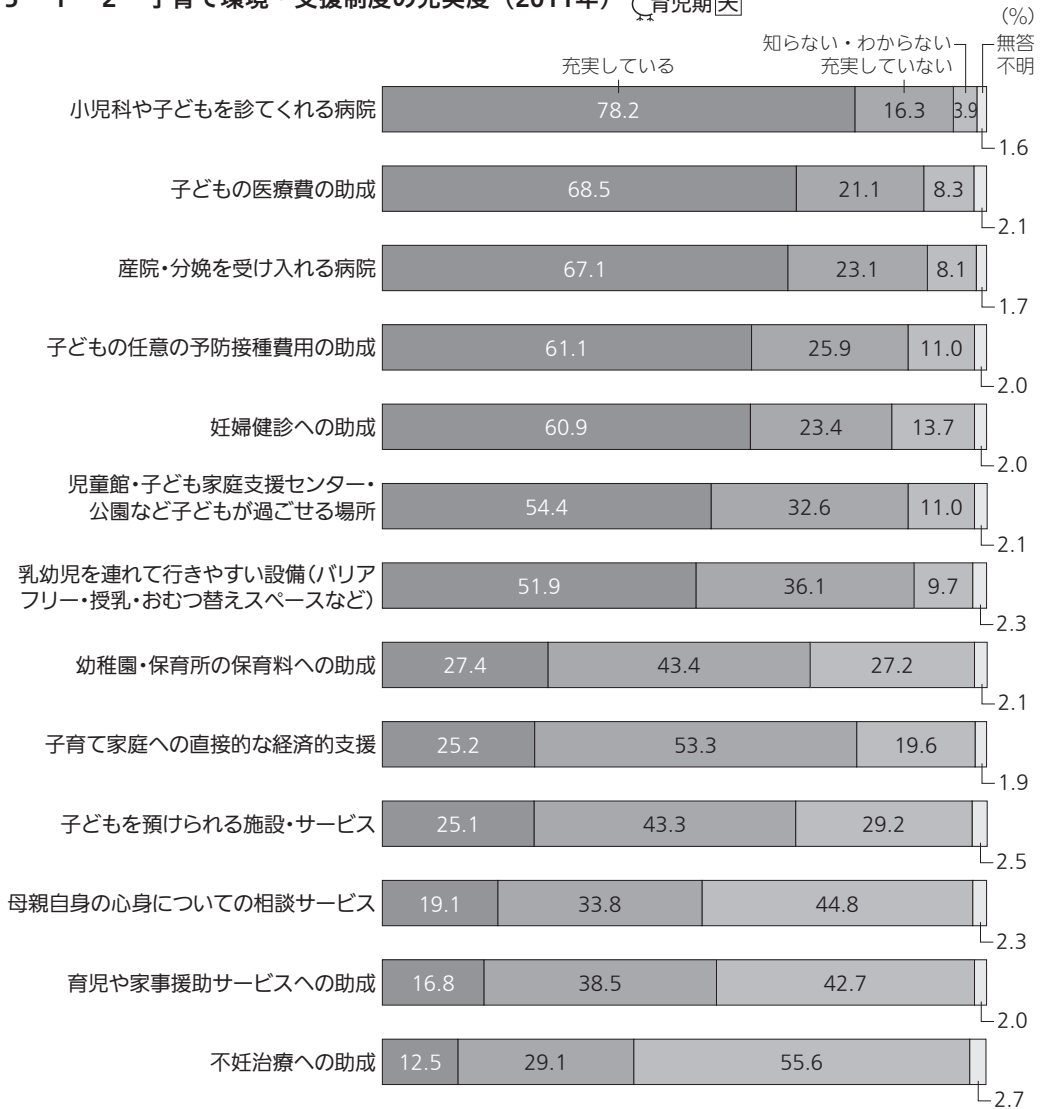
育児期夫（父親）に対して、母親と同じ項目について同じ選択肢を用いて回答を求めた結果を図5-1-2に示した。母親とほぼ同じパターンの分類ができるが、全体として、「知らない・わからない」と回答した人の割合が母親よりも多い傾向がみられた。

子育てに関わる施設への利便性

子育てをしていくうえで、生活必需品を購入できる場所への利便性のよさは、養育者の負担感を少しでも軽減するものではないだろうか。図5-1-3は、「おむつや粉ミルク、離乳食などを買える店」が近所にあるかどうか、

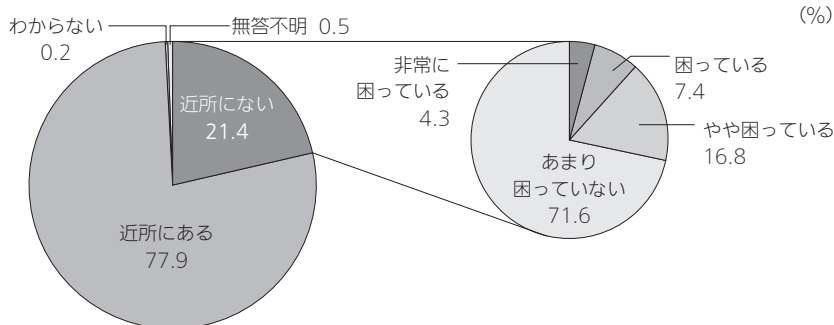
ない場合にはどのくらい困っているかを母親にたずねた結果である。「近所にある」と回答した母親が全体のおよそ8割（77.9%）であり、大多数の母親が育児にかかわる生活必需品を購入する場所へのアクセスがよいところに住んでいることがわかった。一方で、「近所がない」と回答した母親は全体の2割程度（21.4%）であった。「近所がない」と回答した人たちの困っている程度をみると、「あまり困っていない」という回答が全体の71.6%と、大半を占めていることが明らかとなった。実際に店舗が近くなっても、ネットショッピングの発達などにより、とくに不便さを感じていないという人が多いのではないかと考えられる。

図5-1-2 子育て環境・支援制度の充実度（2011年）



注) 「充実している」 = 「とても充実していると思う」 + 「まあ充実していると思う」
 「充実していない」 = 「あまり充実していると思わない」 + 「まったく充実していると思わない」。

図5-1-3 おむつや粉ミルク、離乳食などを買える店（2011年）



注) 「近所がない」 = 「近所がないが、あまり困っていない」 + 「近所がないので、やや困っている」 + 「近所がないので、困っている」 + 「近所がないので、非常に困っている」。

第2節

子育て環境・支援制度と 子育てに対する意識

各支援制度に対する母親の主観的な評価別に、子育てに対する感情をみると、充実していないとする群で、子育てに対する不安感、焦燥感や負担感がみられる傾向にある。

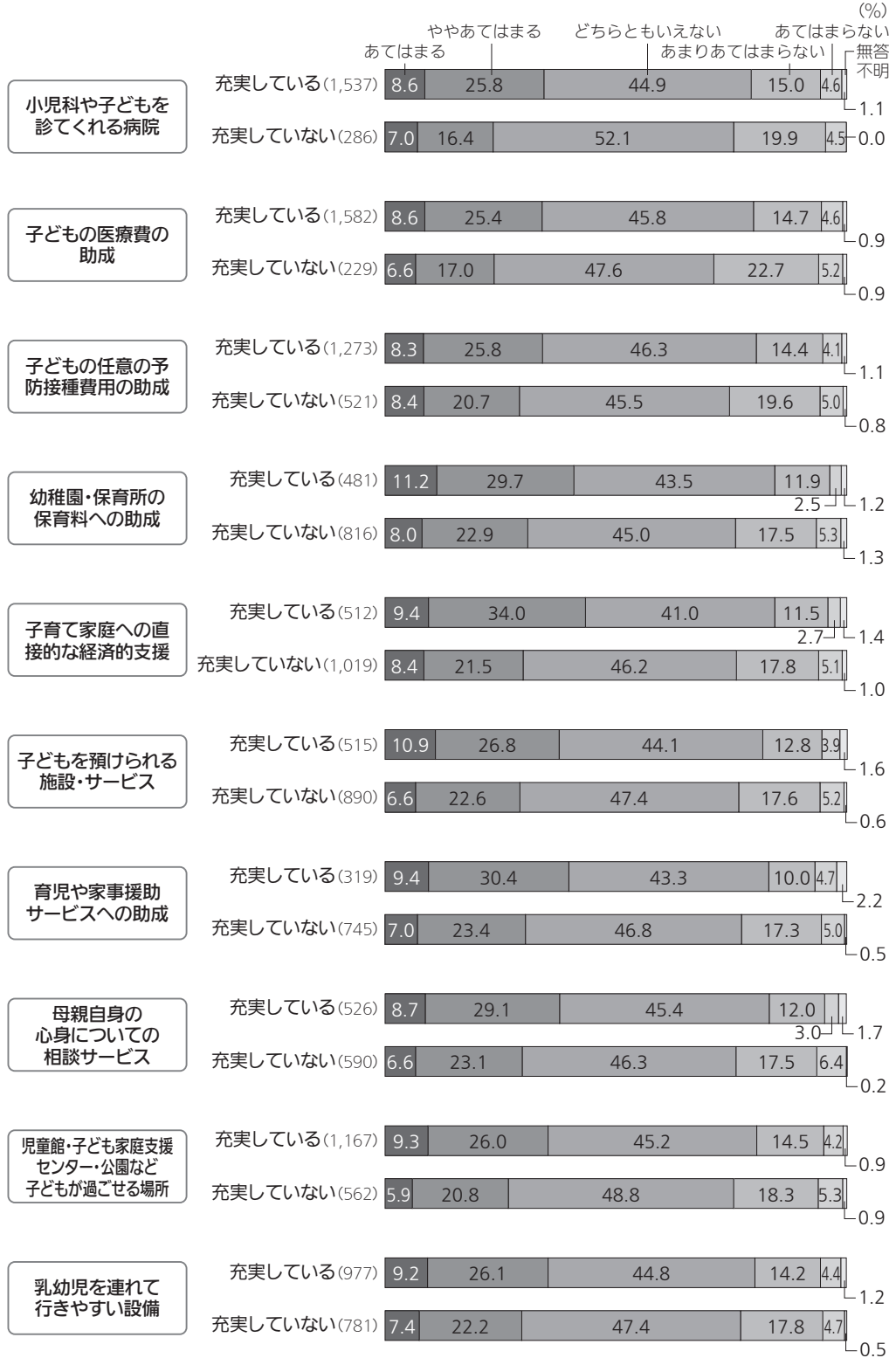
子育て環境や支援制度が整っている地域に住んでいるほうが、母親の子育てに対する不安感や負担感が低く、子育てに対してもポジティブに取り組んでいることが予想されるが、実際にはどうだろうか。本節では、子育て環境や支援制度の充実度と、子育てに対する肯定感および不安感・負担感との関連を検討してみたい。

各支援制度に対する母親の主観的な評価別に、子育てに対する感情をみてみよう。それぞれの支援制度に対して、「とても充実していると思う」と「まあ充実していると思う」と回答した人を充実している群、「あまり充実していると思わない」と「まったく充実していると思わない」と回答した人を充実していない群にグループ化し、子育てに対する肯定感、不安感、負担感に関する項目についてグループ別に表したものが図5-2-1~4である。(現在の子育ての状況について検討

するため、支援制度のうち「産院・分娩を受け入れる病院」、「妊婦健診への助成」、「不妊治療への助成」の3項目については、分析から除外している)。

子育てに対する肯定感(「子育てに自信が持てるようになった」と支援制度の充実度との関係(図5-2-1)をみてみると、どの支援制度についても、充実している群のほうが、「あてはまる」あるいは「ややあてはまる」と回答している母親が多いことがわかる。とくに、「幼稚園・保育所の保育料への助成」や、「子育て家庭への直接的な経済的支援」、「小児科や子どもを診てくれる病院」「子どもの医療費の助成」などは、両群の差が大きいことがわかる。地域社会の支援制度が充実していることと、母親が自信をもって前向きに子育てができるようになっていくこととの間の関連が示唆される結果となった。

図5-2-1 子育てに自信が持てるようになった(2011年 支援制度の充実度別) (育児期妻)



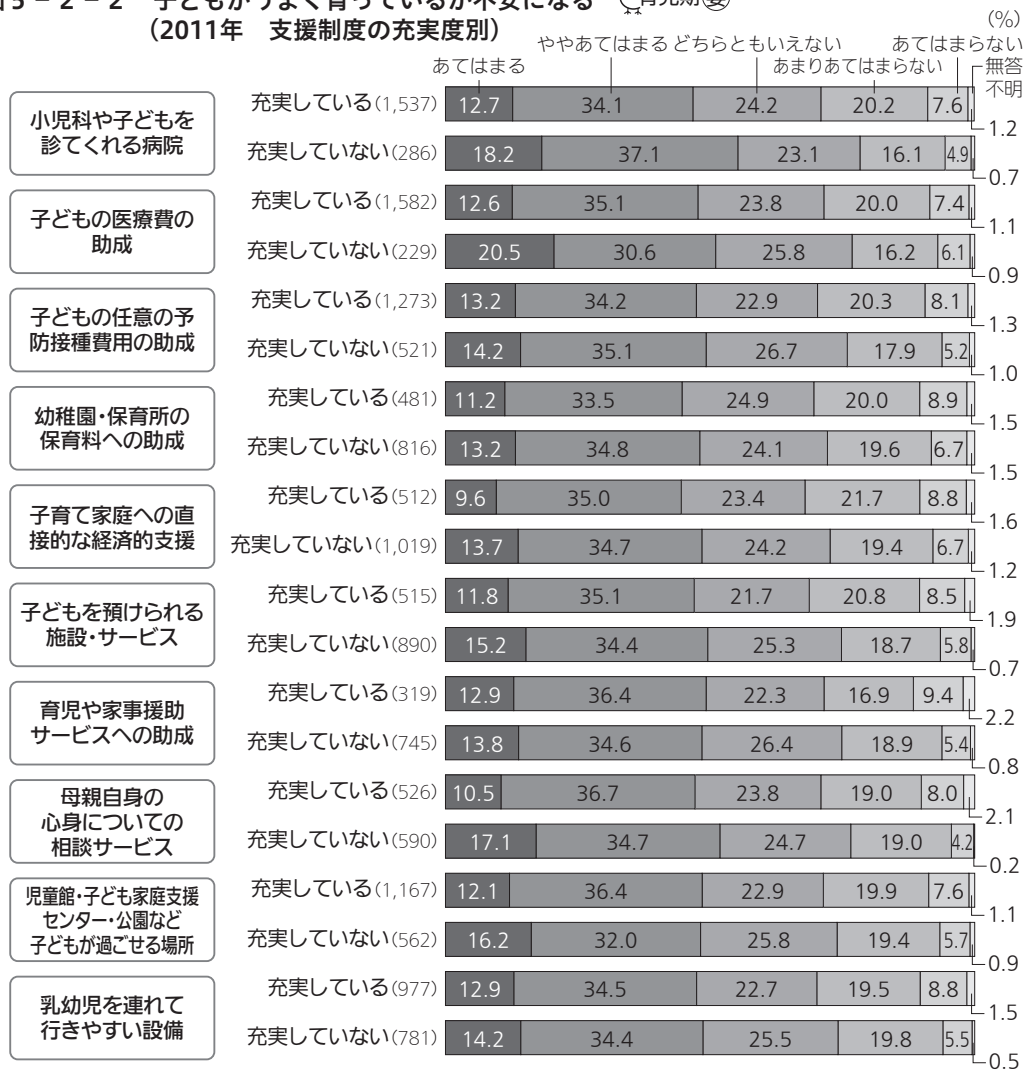
注1) 「充実している」 = 「とても充実していると思う」 + 「まあ充実していると思う」
 「充実していない」 = 「あまり充実していると思わない」 + 「まったく充実していると思わない」。
 注2) 13項目中、子育てに関連する10項目を図示。
 注3) ()内はサンプル数。

同様に、子育てに対する不安感（「子どもがうまく育っているか不安になる」、「子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある」）、負担感（「子育てが重荷に感じられる」）について支援制度の充実度に対する評価の2群について比較したものが図5-2-2～4である。

「子どもがうまく育っているか不安になる」（図5-2-2）では、「小児科や子どもを診てくれる病院」や「子どもの医療費の助成」、「母親自身の心身についての相談サービス」などの支援制度において、充実していない群の不安感が高めであることがわかった。たと

えば、「小児科や子どもを診てくれる病院」については、充実している群では「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人は合わせて46.8%であったが、充実していない群では55.3%と、充実していない群のほうが「子どもがうまく育っているか不安になる」人の割合が8.5ポイント高かった。医療費の助成制度や、病院など、子どもの健康や成長・発達について相談できたり、母親が自分自身の心身の状態に不安を抱えたときに相談できたりする場所が充実していないことは、母親の子育てに対する不安感を高める可能性があることが示唆される結果となった。

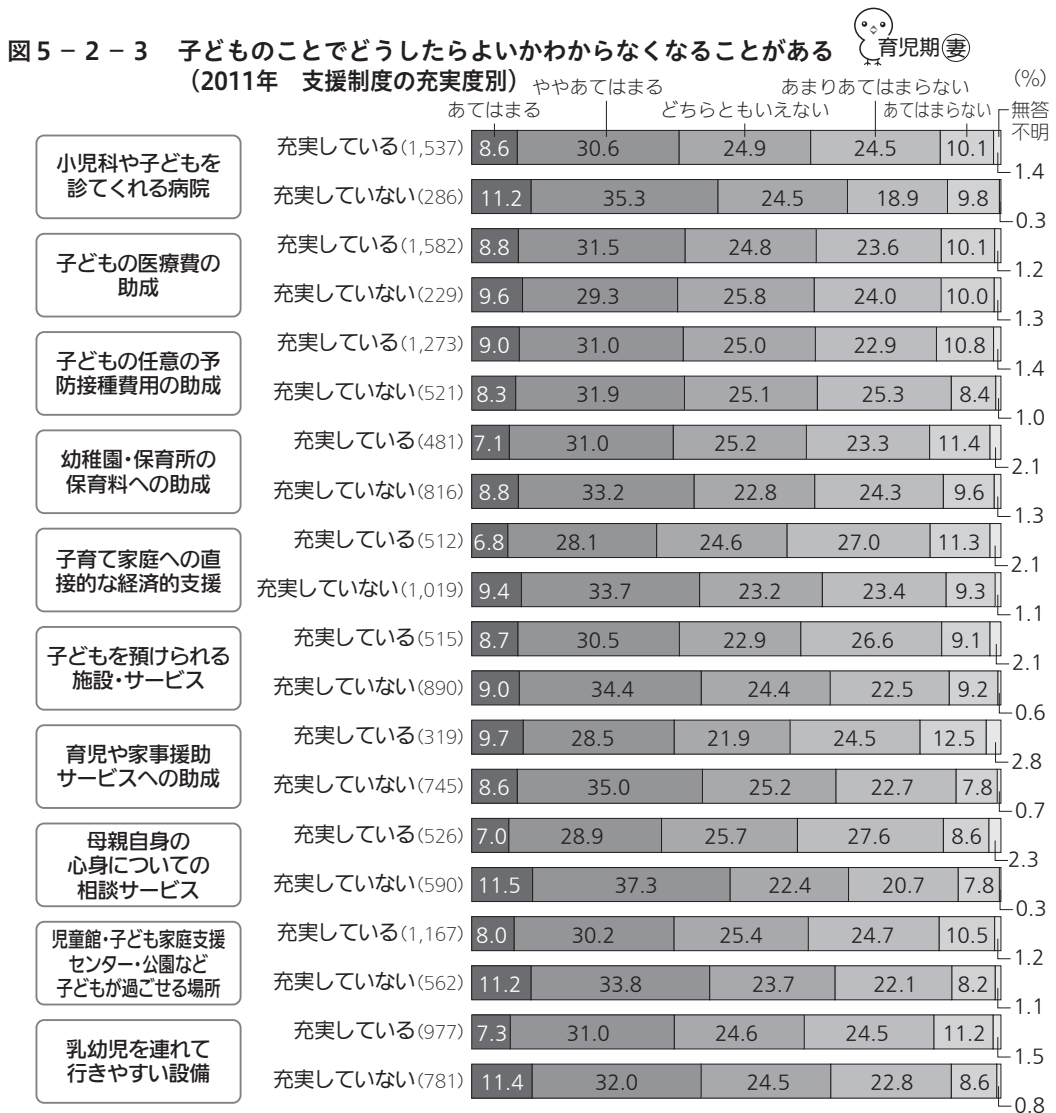
図5-2-2 子どもがうまく育っているか不安になる（2011年 支援制度の充実度別）
育児期妻



注1) 「充実している」 = 「とても充実していると思う」 + 「まあ充実していると思う」
「充実していない」 = 「あまり充実していると思わない」 + 「まったく充実していると思わない」。
注2) 13項目中、子育てに関連する10項目を图示。
注3) () 内はサンプル数。

「子どものことでどうしたらよいかわからなくなることもある」(図5-2-3)では、「子育て家庭への直接的な経済的支援」、「育児や家事援助サービスへの助成」、「母親自身の心身についての相談サービス」などの支援制度において、充実していない群の否定的な感情が高めであることが示された(「あてはまる」+「ややあてはまる」で比較)。近年の社会状況をかんがみると、現在および将来、子どもにかかる(であろう)お金に対する不

安を感じている養育者も少なくないことが予想される。「子どものことでどうしたらよいかわからなくなることもある」には、子どもの養育に対する不安感・焦燥感のみならず、家計に対する不安感も含まれていると想像される。母親が安心して子育てに取り組めるようにするためには、母親の心身の健康面のみならず、経済的な面についても安定を図れるような支援が必要であることが示唆された。

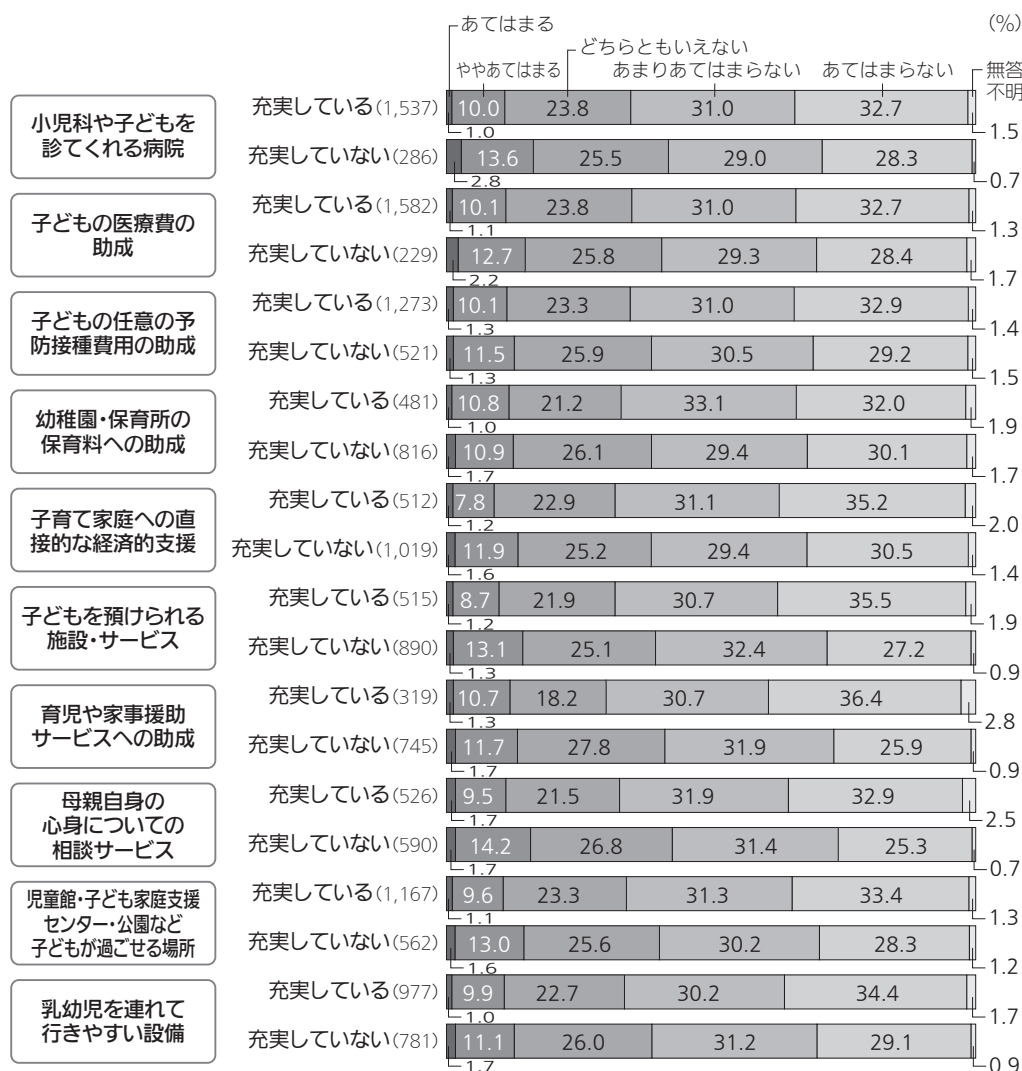


注1) 「充実している」=「とても充実していると思う」+「まあ充実していると思う」
 「充実していない」=「あまり充実していると思わない」+「まったく充実していると思わない」。
 注2) 13項目中、子育てに関連する10項目を図示。
 注3) ()内はサンプル数。

子育てに対する負担感を表す「子育てが重荷に感じられる」(図5-2-4)では、「小児科や子どもを診てくれる病院」や「子どもを預けられる施設・サービス」、「育児や家事援助サービスへの助成」、「母親自身の心身についての相談サービス」などの支援制度において、充実している群のほうが子育てを重荷と感じていない傾向があることがわかった(「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」で比較)。たとえば、「育児や家事援助サ-

ビスへの助成」については、充実している群では「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答している人が合わせて67.1%であるのに対して、充実していない群では57.8%であり、9.3ポイントの違いがあった。託児サービス、育児や家事援助サービスへの助成などが充実していることは、母親の心身両面のリフレッシュと疲労を軽減する機能をはたしているのではないかと推測される。

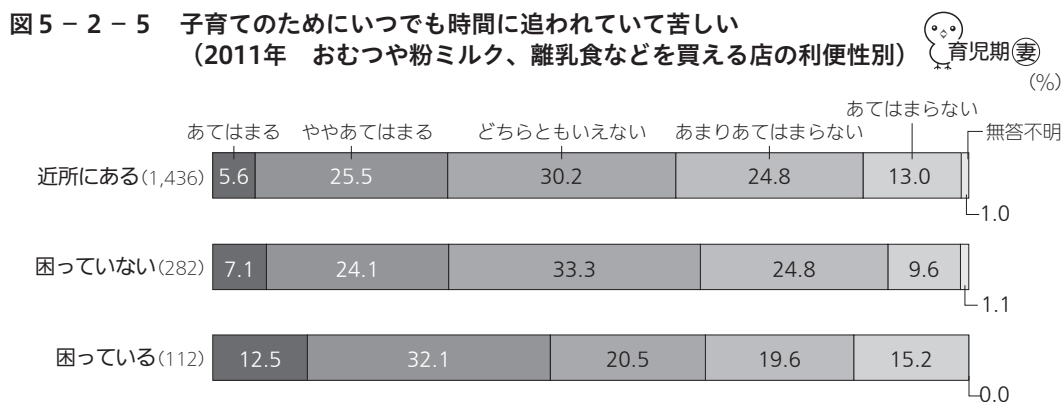
図5-2-4 子育てが重荷に感じられる(2011年 支援制度の充実度別)



注1) 「充実している」=「とても充実していると思う」+「まあ充実していると思う」
「充実していない」=「あまり充実していると思わない」+「まったく充実していると思わない」。
注2) 13項目中、子育てに関連する10項目を図示。
注3) ()内はサンプル数。

最後に、子育ての必需品を購入する場所へのアクセスと子育てに対する負担感との関係についてみてみたい。「おむつや粉ミルク、離乳食などを買える店」が近くにあるかどうか、ない場合にはどのくらい困っているかについての回答に基づき、「近所にないので、非常に困っている」「近所にないので、困っている」「近所にないので、やや困っている」と回答した人を困っている群、「近所にないが、あまり困っていない」と回答した人を困っていない群、「近所にある」と回答した人を近所にある群と、母親を3つのグループに分

類した。この3つのグループで、子育てに対する負担感である「子育てのためにいつでも時間に追われていて苦しい」に対する回答を比較した結果を図5-2-5に示した。近所にある群と困っていない群に比べると、(近所になくて)困っている群は「子育てのためにいつでも時間に追われていて苦しい」に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人が多いことが明らかとなった(近所にある群:31.1%、困っていない群:31.2%、困っている群:44.6%)。



注1) 「おむつや粉ミルク、離乳食などを買える店」についてたずねた質問の回答を「近所にある」＝「近所にある」、「近所にないが、あまり困っていない」＝「困っていない」、「近所にないので、非常に困っている」＋「近所にないので、困っている」＋「近所にないので、やや困っている」＝「困っている」でグループに分けた。

注2) () 内はサンプル数。

第3節

地域の人口規模による支援体制の充実感評価の違い

居住地域の人口規模別に充実度の評価をみると、物理的環境への満足度は大規模都市で高く、子育て支援への満足度は小規模都市で高い傾向にある。

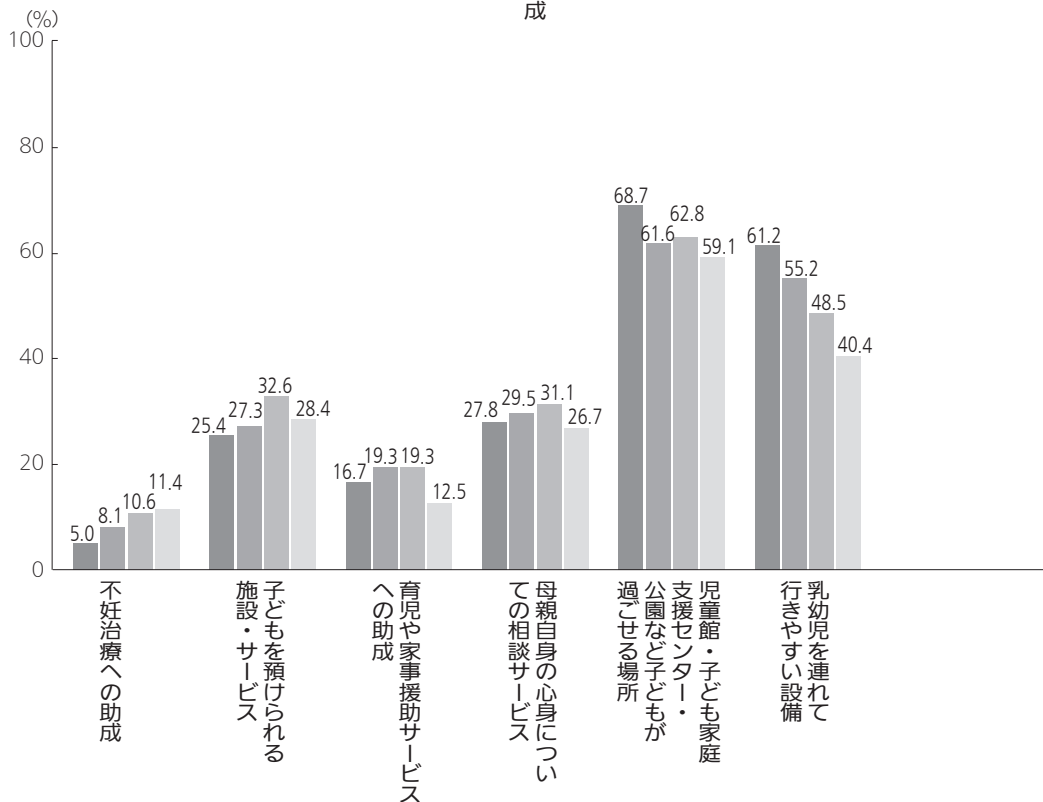
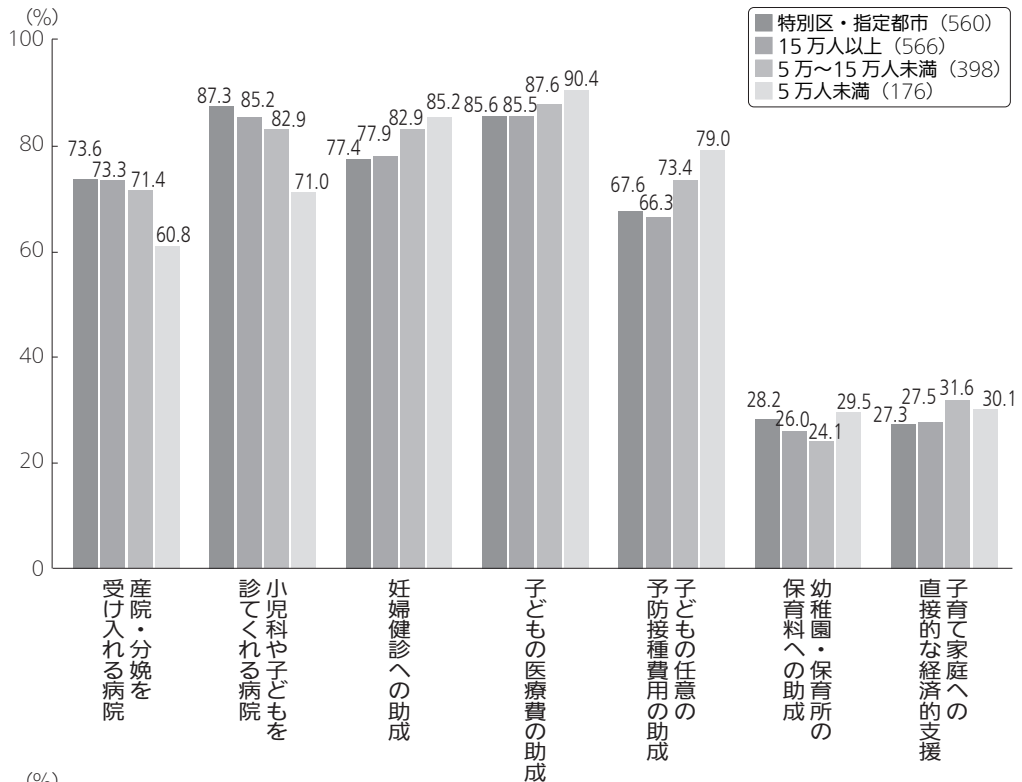
子育て環境・支援制度は、母親の子育てへの余裕や自信に重要な役割をはたすが、その整備状況や充実度、内容にはばらつきがある。

本節では、子育て世帯が居住する地域の人口規模別に、支援制度の充実度の評価をみてみたい。母親の居住地域の人口規模を「5万人未満」、「5万人以上15万人未満」、「15万人以上」、「特別区・指定都市」の4グループに分類し、子育て環境・支援制度の各項目について、「充実している」（「とても充実していると思う」＋「まあ充実していると思う」の合計）と回答した人の割合を示したものが図5-3-1である。人口規模のグループ間で違いがみられたのは、「産院・分娩を受け入れる病院」、「小児科や子どもを診てくれる病院」、「子どもの任意の予防接種費用の助成」、「児童館・子ども家庭支援センター・公園など子どもが過ごせる場所」、「乳幼児を連れて行きやすい設備」の5項目である。「子どもの任意の予防接種費用の助成」以外は、人口規模が大きいほど充実していると回答する人の割合が高くなっている。これらの項目

はすべて、妊娠・出産・子育てに関係する物理的環境に関するものである。たとえば「乳幼児を連れて行きやすい設備」に注目してみると、「特別区・指定都市」では61.2%が充実していると回答しているのに対して、「5万人未満」では40.4%と、約21ポイントもの差がみられる。その理由の1つとして、公共交通機関のエレベーターの設置や、多機能トイレの設置などのバリアフリー化などに、大規模都市と小規模都市の間で差があることが推測される。

一方で、任意の予防接種費用の助成は、「5万人未満」で79.0%に対して「特別区・指定都市」は67.6%と、人口規模が小さいほうが充実度の評価が高い。その理由として、人口規模が小さい地域では、少子化・過疎化対策の一環として、子育てに対する支援に力を入れているところが多いのではないかと推察される。

図5-3-1 子育て環境・支援制度の充実度（2011年 居住地の人口規模別）



注1) 「充実している」= 「とても充実していると思う」+ 「まあ充実していると思う」の%。

注2) 「特別区・指定都市」…特別区（東京23区）および2011年11月現在の政令指定都市19市。「15万人以上」…特別区・指定都市を除いた人口15万人以上の市町村。「5万～15万人未満」…人口5万人以上15万人未満の市町村。「5万人未満」…人口5万人未満の市町村（総務省統計局編『統計でみる市区町村のすがた2012』より）。

注3) () 内はサンプル数。

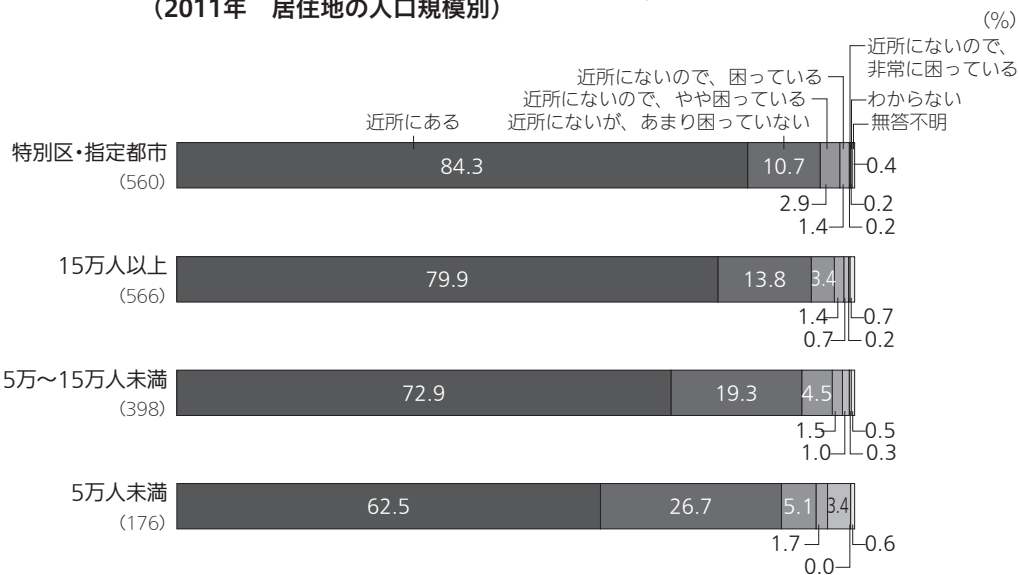
最後に、「おむつや粉ミルク、離乳食などを買える店」が近くにあるかどうかを、居住地の人口規模別にみた結果を図5-3-2に示した。人口規模が大きくなるほど、「近所にある」と回答した人が多くなる傾向がみられた。人口規模が小さくなるほど、「近所はないが、あまり困っていない」と回答する人の割合が増え、「5万人未満」では3割弱(26.7%)となっていた。この理由として、先に述べたネットショッピングの発達に加え、小規模都市では、交通手段が主として車であるところが多くなると予想され、遠くの店舗まで車で買いに行くことができ、近くになくてもさほど困っていないのではないかと推察される。

本調査の結果から、子育て世帯への支援制度や子育てのサポートになるような施設は、

母親の子育てに対する負担感・不安感を軽減し、子育てに余裕と自信をもって取り組めるようにするために重要な役割をはたしていることが示唆された。しかしながら、その整備状況や充実度、内容にはばらつきがあるということも同時に明らかとなった。たとえば、母親自身の心身についての相談サービスについては、子育てに対する感情のいずれの側面ともかかわりがあることが示唆されたが、サービスの認知度も充実度も高いほうではない。

子育て世帯が本当に必要としているものは何なのか、真のニーズを把握し、必要な人に、必要なときに、適切な支援が迅速に届けられるよう、制度の充実、質の向上を図るとともに、すべての子育て世帯が必要な情報にアクセスできるような地域情報ネットワークの構築も必要であると考えられる。

図5-3-2 おむつや粉ミルク、離乳食などを買える店
(2011年 居住地の人口規模別)



注1) 「特別区・指定都市」…特別区（東京23区）および2011年11月現在の政令指定都市19市。「15万人以上」…特別区・指定都市を除いた人口15万人以上の市町村。「5万～15万人未満」…人口5万人以上15万人未満の市町村。「5万人未満」…人口5万人未満の市町村（総務省統計局編『統計でみる市区町村のすがた2012』より）。

注2) ()内はサンプル数。